

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成18年11月30日(2006.11.30)

【公表番号】特表2002-527727(P2002-527727A)

【公表日】平成14年8月27日(2002.8.27)

【出願番号】特願2000-575892(P2000-575892)

【国際特許分類】

G 0 1 N	33/50	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
C 0 7 K	5/08	(2006.01)
C 0 7 K	7/06	(2006.01)
G 0 1 N	33/15	(2006.01)
G 0 1 N	33/566	(2006.01)

【F I】

G 0 1 N	33/50	Z
A 6 1 K	45/00	
A 6 1 P	43/00	1 1 1
C 0 7 K	5/08	
C 0 7 K	7/06	
G 0 1 N	33/15	Z
G 0 1 N	33/566	

【手続補正書】

【提出日】平成18年10月12日(2006.10.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】受容体を刺激するか、または受容体の活性な受容体状態の活性を減少させる化合物として候補化合物を直接同定するための方法であって、該受容体は、オーファン受容体であり、該方法は、以下の工程：

(a) 該候補化合物を構成的に活性化されるオーファン受容体と接触させる工程；および
(b) 該接触された受容体における該化合物の効能を測定することにより、該化合物が、該受容体を刺激するか、または該受容体の活性状態の活性を減少させるかどうかを決定する工程

を包含する、方法。

【請求項2】前記候補化合物が前記受容体の活性状態の活性を減少させると直接同定される、請求項1に記載の方法。

【請求項3】前記オーファン受容体が内因性の構成的に活性化されるオーファン受容体である、請求項1に記載の方法。

【請求項4】前記オーファン受容体が非内因性の構成的に活性化されるオーファン受容体である、請求項1に記載の方法。

【請求項5】前記オーファン受容体がGタンパク質共役細胞表面オーファン受容体である、請求項1に記載の方法。

【請求項6】前記オーファン受容体の第3細胞内ループが、以下の配列：

X 1 B B H y X 2

ここで X 1 はアミノ酸であり；B は塩基性アミノ酸であり；H y は疎水性アミノ酸であり、そして X 2 はアミノ酸である、を含む、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 7】X 1 がグリシンである、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 8】X 1 がアラニンである、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 9】X 1 がリシンである、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 10】H y がアラニンである、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 11】X 2 がリシンである、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 12】X 2 がアルギニンである、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 13】X 2 がグルタミン酸である、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 14】前記オーファン受容体の第 2 細胞内ループが、以下の配列：

X R Y

ここで X は D 以外のアミノ酸であり得る、を含む、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 15】上記配列 X 1 B B H y X 2 が内因性の配列である、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 16】上記配列 X 1 B B H y X 2 が非内因性の配列である、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 17】上記配列 X R Y が内因性の配列である、請求項 14 に記載の方法。

【請求項 18】上記配列 X R Y が非内因性の配列である、請求項 14 に記載の方法。

【請求項 19】工程 (c) 前記化合物が、薬学的組成物として処方される工程をさらに包含する、請求項 1 ~ 5 に記載の方法。

【請求項 20】受容体を刺激するか、または受容体の活性な受容体状態の活性を減少させる化合物として候補化合物を直接同定するための方法であって、該受容体が、非内因性の構成的に活性化される G タンパク質共役細胞表面オーファン受容体であり、該方法は以下の工程：

(a) 該候補化合物を、非内因性の構成的に活性化される G タンパク質共役細胞表面オーファン受容体と接触させる工程；および

(b) 該接触された受容体における該化合物の効能を測定することにより、該化合物が該受容体を刺激するか、または該受容体の活性状態の活性を減少させるかどうかを決定する工程：

を包含する、方法。

【請求項 21】前記候補化合物が前記受容体の活性状態の活性を減少させると直接同定される、請求項 20 に記載の方法。

【請求項 22】工程 (c) 前記化合物が、薬学的組成物として処方される工程をさらに包含する、請求項 20 に記載の方法。

【請求項 23】受容体を刺激するか、または受容体の活性な受容体状態の活性を減少させる化合物として候補化合物を直接同定するための方法であって、該受容体が、内因性の構成的に活性化される G タンパク質共役細胞表面オーファン受容体であり、該方法は、以下の工程：

(a) 該候補化合物を、内因性の構成的に活性化される G タンパク質共役細胞表面オーファン受容体と接触させる工程；および

(b) 該接触された受容体における該化合物の効能を測定することにより、該化合物が、該受容体を刺激するか、または該受容体の活性状態の活性を減少させるかどうかを決定する工程

を包含する、方法。

【請求項 24】前記候補化合物が前記受容体の活性状態の活性を減少させると直接同定される、請求項 23 に記載の方法。

【請求項 25】工程 (c) 前記化合物が、薬学的組成物として処方される工程をさらに包含する、請求項 23 または 24 に記載の方法。

【請求項 26】請求項 1 に記載の方法により同定される化合物。

【請求項 27】請求項 2 に記載の方法により同定される化合物。

【請求項 28】請求項3に記載の方法により同定される化合物。

【請求項 29】請求項4に記載の方法により同定される化合物。

【請求項 30】請求項5に記載の方法により同定される化合物。

【請求項 31】請求項6に記載の方法により同定される化合物。

【請求項 32】請求項14に記載の方法により同定される化合物。

【請求項 33】請求項26に記載の化合物を含む医薬組成物。

【請求項 34】請求項27に記載の化合物を含む医薬組成物。

【請求項 35】請求項28に記載の化合物を含む医薬組成物。

【請求項 36】請求項29に記載の化合物を含む医薬組成物。

【請求項 37】請求項30に記載の化合物を含む医薬組成物。

【請求項 38】請求項31に記載の化合物を含む医薬組成物。

【請求項 39】請求項32に記載の化合物を含む医薬組成物。

【請求項 40】請求項20に記載の方法により直接同定される化合物。

【請求項 41】請求項21に記載の方法により直接同定される化合物。

【請求項 42】請求項40に記載の化合物を含む医薬組成物。

【請求項 43】請求項41に記載の化合物を含む医薬組成物。

【請求項 44】請求項23に記載の方法により直接同定される化合物。

【請求項 45】請求項24に記載の方法により直接同定される化合物。

【請求項 46】請求項44に記載の化合物を含む医薬組成物。

【請求項 47】請求項45に記載の化合物を含む医薬組成物。